

環境の科学で新しい価値を



株式会社片山化学工業研究所
イメージキャラクター「ミラちゃん」



株式会社片山化学工業研究所

会社案内

株式会社片山化学工業研究所

本社 〒533-0023 大阪市東淀川区東淡路1丁目6番7号
TEL.06(6322)0176(代) FAX.06(6323)0548
URL <https://www.katayama-chem.co.jp>



環境と産業が調和する 豊かな未来へ“価値共創”

片山化学工業研究所は1908年の創業以来、様々な産業界へ製品・技術サービスをお届けしてきました。その間、“水の化学-Chemistry-”から、“環境の科学-Science-”へ事業ドメインを広げ、新しい価値の創造を目指してきました。

現在は、鉄鋼、製紙や石油化学／石油精製プロセスをはじめとする様々な産業の水処理事業をコアとし、海洋・住環境・環境計量などの新たな分野の環境事業へと発展し、環境と安全安心に配慮した製品と技術サービスをお届けしています。また、2004年に業界最大手のNALCO社との合弁販社片山ナルコ株式会社を設立し、互いに連携を深めながらグローバル技術を融合した総合的な価値を提供しています。

こうした事業活動の基本として、私たちは“脚下照顧”“自他不二”という理念を掲げています。常に足元を照らして自らを顧み誠実に堅実であること、自分と相手、すなわち当社とお客様をひとつとらえ、共に成長・繁栄を目指すこと。二つの教えを念頭に置きながら、様々な産業の環境経営のパートナーとしてお役に立ちたいと考えています。私たちはこれからも、お客様と共に価値を共創し、社会の持続可能な発展に貢献していきます。

代表取締役社長 **野村 安宏**



経営理念

“脚下照顧”“自他不二”を基本とし、
MIRACLE を通して社会に貢献する

脚下照顧 = 初心を忘れず、自らを顧みて、謙虚・誠実・堅実に行動すること

自他不二 = 他を自らと区別せず、お互い敬意をもって理解し、協力し合うこと

MIRACLE = “奇跡”を創造し続ける片山化学工業研究所の会社・社員のすべて



ミッション (我々の使命)

社会の“持続可能な発展”に貢献する

量的な経済発展から、質的な経済発展へ。

環境への負荷を低減し、未来にわたり持続可能な社会づくりに貢献する為に、環境の科学を通じて新しい価値を提供します。



ビジョン (目指す将来像)

お客様に喜んでいただく為に、環境と安全安心に
配慮した製品、技術とサービスを提供し、持続的に
発展する会社を目指す

お客様の経営方針や環境活動をよく理解し、経営課題の解決に役立つ
新しい技術、製品、サービスの開発・提供に取り組みます。

同時に、安全を第一に、あらゆる業務の品質・コスト・プロセスの改善を
進め、健全な経営を維持し、持続的に発展する会社を目指します。

環境の科学で 新しい価値を。

社会・経済の発展に、水はきわめて重要な役割を果たしています。

鉄鋼、石油化学、エネルギー、製紙など社会基盤を支える多くの産業にとって水は欠かせない存在です。

一方で自然環境の視点に立てば、水は限られた資源であり、地球を循環しながら全ての生態系に大きな影響を及ぼしています。

“水の化学-Chemistry-”を核として、私たち片山化学工業研究所のワークフィールドは、プラントから身近な暮らしの分野まで、常に環境との調和を図りながらその枝葉を伸ばしてきました。

それは“環境の科学-Science-”を根とした木にたとえることも出来ます。

産業の発展と地球資源の有効利用と自然環境の保全をいかにして調和させるか。

これからもこの人類共通の課題を使命と受け止めて、“環境の科学で新しい価値を”

提供する企業でありたいと考え、コーポレートメッセージとして掲げています。

MIRACLE VALUE TREE



■ は合併版片山ナルコ(株)を通じて解決策をご提案しています。

多分野で蓄積されたノウハウと技術／研究開発体制

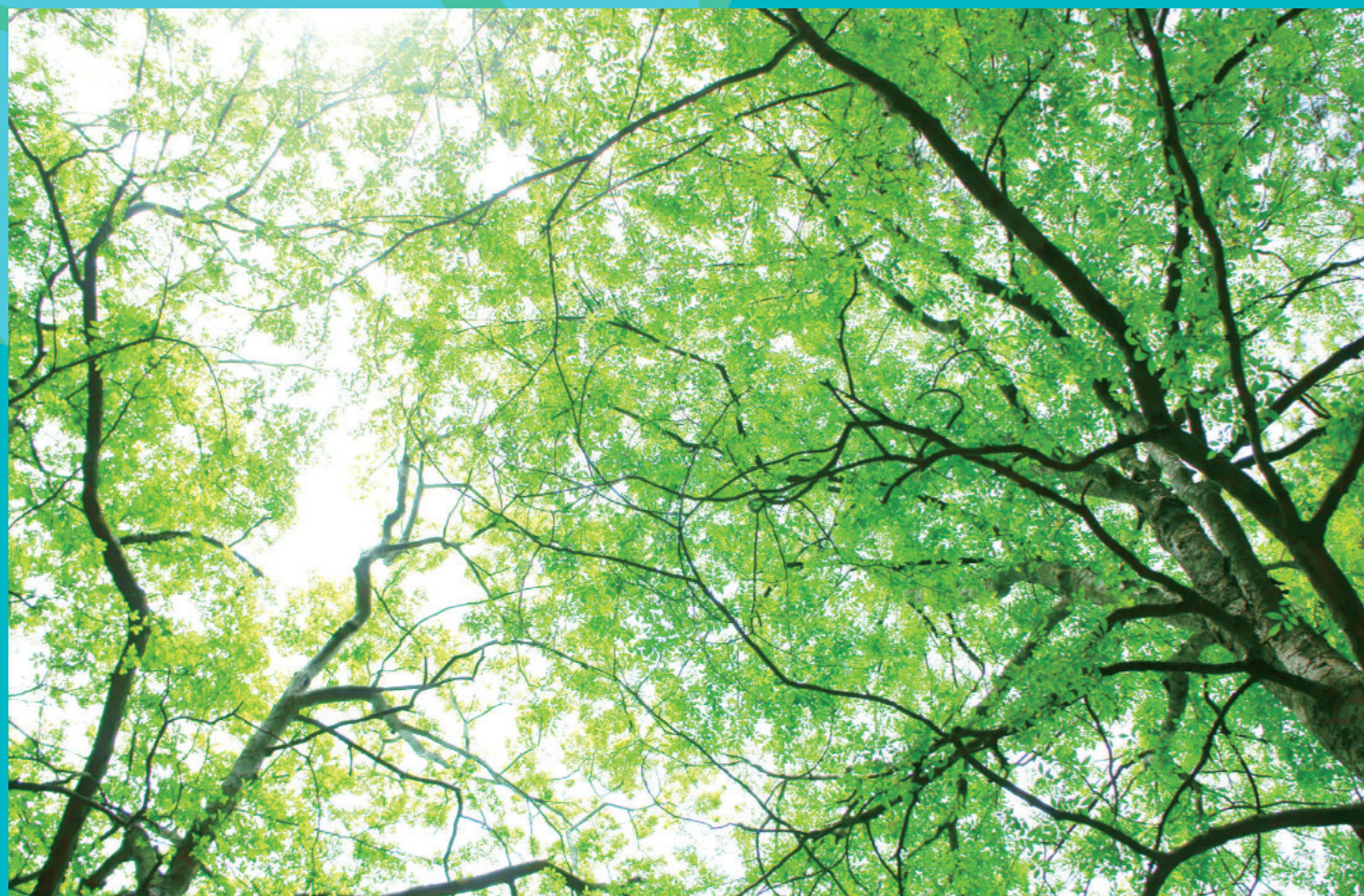
環境分析

測定対象の種類を問わず、最新鋭の分析装置をそろえ、多種多様な分析を実施しています。

- 水質汚濁物質・大気汚染物質
- 地下水・土壌汚染物質
- 産業廃棄物・底質
- 飲料水検査
- 農薬・環境ホルモン PRTR関連物質
- ダイオキシン
- 作業環境測定
- アスベスト
- 水処理関連 各種試験・調査・解析
- 環境コンサルタント
- 現地PID分析 (VOC測定)
- 排ガス分析
- 悪臭分析
- リサイクル燃料分析

地球上の限りある資源を大切に
自然と調和した環境保全を目指して

Value / Earth



長年の実績とノウハウを異分野へ応用し、
環境保全と安全性を追求した循環型社会の
実現に貢献する積極的アプローチ。
ここでも私たちのユニークな独自性が発揮されて
います。文字通り“環境の科学で新しい価値を”
提供することへのチャレンジです。



木材の生物劣化を防ぐ、住環境事業

木材は住宅だけでなく、屋外のベンチや遊具、木柵等に広く利用されています。住環境事業では、これら木材の劣化を長期的に防ぐ薬剤を開発しています。木材の劣化には、腐り、カビの発生、白アリによる食害等があり、放置しておくと景観だけでなく安全性も失うため、薬剤による処理は必要不可欠です。効能はもとより、安全安心にご利用いただける製品開発を進めています。



水産に貢献する、海洋・養殖事業

海洋・養殖事業では、水産に貢献していくため、創業以来培った水処理技術を応用し、安全安心な製品提供を続けています。現在、国内で流通しているタイやブリ類は養殖魚が6割を占め、安定した生産を行うことが重要となっています。そうした中、当社では海洋環境にやさしい製品を提供すると共に、水産に貢献出来る動物用医薬品の製品開発を進めています。



臭気問題を解決する、消臭事業

工場等の事業所から発生する臭気については、“悪臭防止法”という法律が定められています。当社では、様々な臭気問題に関して、臭気の程度の専門的調査(官能評価)、臭気成分の専門的調査(機器分析)、臭気への対策方法(薬剤反応による対策)をご提案しています。





片山化学工業研究所は創業以来、限りある資源である“水”をテーマにお客様の事業発展に寄り添ってきました。

“水”は産業の発展に必要不可欠です。

私たちはいつの時代も安全安心な水を守るため、お客様のための、ひいては日本の産業の持続可能な成長のための製品開発を続けてきました。

今後、水の使用量削減や再利用、省エネなど環境負荷の低減がより一層求められる社会においても、いち早くニーズを察知し、ソリューションを提供していきます。

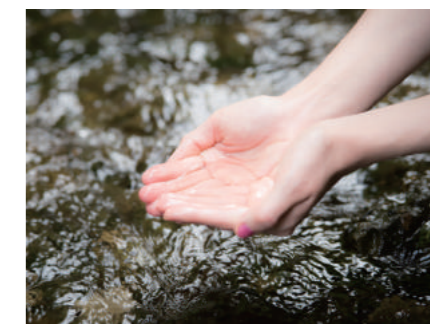
環境にやさしい
水処理剤のパイオニアとして
持続可能な産業の発展と環境経営に寄与

Value / Industry



地球環境を保護する“水の化学”

リン酸やヒドラジンを含まず人体にも地球環境にもやさしく、かつ優れた防食・防スケール効果をもつボイラ水処理剤や低CODで環境負荷の低い冷却水処理剤、海生生物を殺傷しない付着防止剤など、“水の化学”を探求して生まれた製品で、環境負荷を低減しながらも安定した工場操業を実現してきました。



品質改善と生産性向上をサポート

私たちは排水、ボイラ水、冷却水、海水の処理薬剤だけでなく、石油精製、石油化学や紙パルプ製造プロセス用の薬剤も提供しています。石油精製、石油化学プラントにおける腐食や汚れなどの問題解決や、紙パルプ製造工程におけるプロセス改善薬剤やスライムコントロール剤、洗浄剤、汚れ防止剤など、お客様の声を聞くことで生まれた幅広い製品群で、製品品質改善と生産性向上をサポートします。



新しい価値の創造を担う
分析技術と研究開発力が
環境保全のソリューションを提供

Value / Solution



各産業分野で長年にわたって培った特殊分析の実績は、各種の環境分析へと発展し、片山化学工業研究所の新たなコア事業へと成長。その分析技術と共に、ユーザーニーズをいち早く把握するネットワークと世界最先端の技術が融合した研究開発力で様々な環境問題を解決するための提案を続けています。



環境の科学の中核をなす高度な分析技術

分析事業では、常に環境と安全安心に配慮し、“社会の持続的な発展に貢献する”をミッションに、量的な経済発展から質的な経済発展へ、環境への負荷を低減し、未来にわたり持続可能な社会づくりに貢献する為に、環境の科学を通じて新しい価値を提供します。私たちが提供する高度な分析技術により、“産業の発展と環境保全”の調和に寄与することを目指しています。



(ISO/IEC 17025)

顧客に密着した研究開発力と世界レベルの先端技術

私たちは創業以来、ユーザーとダイレクトに接することをポリシーとし、全国各地に独自のネットワークを築いてきました。現場のニーズは、研究開発部門である技術開発部に集約され、社内の各部門や産・官・学との積極的な連携で、新たな価値の創造へと繋がっていきます。片山化学工業研究所のこのネットワークと研究開発力は、世界No.1の企業エコラボグループ(ナルコウォーター社、ナルコチャンピオン社)のグローバルな最先端技術、サービスと融合し、合弁販社片山ナルコを通じて、水処理、紙パルプ、石油産業へ“グローバル”な顧客満足を追求しています。このシナジー効果は、トータルな視点による課題、問題点の把握から、より高次元のソリューションの提供へと結実します。

(グローバル: Think Globally Act Locally=Glocally)



綾部で成長し続ける生産拠点
精巧かつ先進の
生産品質管理体制のもと
高品質という価値を追求

Value / Quality



私たちの生産拠点、綾部工場（京都府綾部市）は、
緑豊かな山並みと美しい由良川に囲まれています。
このような自然環境の中で地域と密着、共生し、
自然環境の保全と先進の生産品質管理体制の
両立を実現しています。



環境保全と高品質を両立する生産拠点

化学薬品製造を行う中で、環境負荷の低い生産体制を構築すること。さらに直接的な生産活動だけでなく、グリーン購入の促進・省エネルギー生産・容器リサイクルの促進・廃棄物削減など環境に配慮した活動を積極的に推進すること。この2つの実績が、ISO14001 認証取得として評価されています。



ニーズへのフレキシブルな対応と高品質の追求

工場内には、大小様々な生産設備を保有しています。工場・倉庫の増設を行い、更なる大量生産から多品種少量生産可能のフレキシブルな生産体制を確立、緊急事態にも対応出来る出荷体制を整え、全社的にも品質管理システムの見直しを行い、ISO9001 認証取得として評価されています。



綾部工場は、当社の生産拠点としてさらに高品質な生産管理体制の追求・構築に努めています。



薬品の設計・開発、製造及び付帯サービス
(受託試験業務)
●ボイラプラント水処理剤、冷却水系水処理剤
その他の工業用の水処理剤
●製紙・パルプ工業において使用する薬品
●工業用防錆剤 ●工業用洗浄剤



未来へ受け継がれる
挑戦と創造の歩み

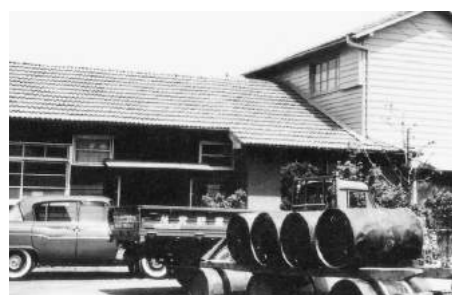
Value / History

1908～

片山化学工業研究所の創業初期の製造作業で実際に使用された直火釜



片山栄(1941年)40才



本社事務所と工場(1957年頃)



本社工場
(1968年頃に
建設した本社工場の外観)



「シェルノン」のカタログ
(1968年頃)

■創業期 1908(明治41年)～1955(昭和30年)

片山化学工業研究所の始まり

明治41年、片山化学工業研究所は、片山製薬所として創業しました。昭和3年より清缶剤の製造販売を始め、昭和6年に片山栄が片山化学工業研究所を創設しました。昭和12年からは戦争の影響を大きく受け、戦後は昭和25年以降、徐々に取引が増え、復興が軌道に乗り始めました。

■設立期 1956(昭和31年)～1965(昭和40年)

“新しい企業のかたち”を確立した高度成長時代

日本の高度経済成長の始まりともいえる昭和31年、片山化学工業研究所は創業者片山栄のもと株式会社として第一歩を踏み出しました。清缶剤を主力製品として、製鉄各社の好況に支えられ着々と販路を拡大しました。日本経済は大衆消費時代を迎え、石炭から石油へエネルギー源の移行が進みました。“エネルギー革命”によって、水処理薬剤も変革期を迎えます。この時期、各企業がボイラの大型化を進め、「ミラクルサンオイル」は重油対応型の助燃剤として一躍脚光を浴びました。

昭和35年、冷却水系水処理剤として防食剤「ミラクルHP」、分散剤「ミラクルDP」を開発。昭和36年、危険物製造工場として昭和化工(株)を設立。昭和38年には「ミラクルサン」が私たちの記念すべき特許登録第1号を取得。同年、本社研究所に研究設備が新しく導入され、研究員の開発意欲に一段と拍車がかかり、営業面でも昭和39年、北海道地区開拓に乗り出しました。日本中が一等国への復帰を目指し沸き返る一方、高度成長の副産物“公害”の兆しが見え始めた時期でもありました。

■成長期 1966(昭和41年)～1973(昭和48年)

大いなる飛躍・エポック・メイキングの時代

戦後最大といわれた“40年不況”のなか、私たちは冷却水部門への進出、製紙業界への参入で業容の変化と拡大を実現し、一大飛躍の時代を迎えます。一方、全国各地で深刻な公害問題が起こりました。昭和42年、公害対策基本法が公布され公害防止対策が進む過程で、時代の要請にいち早く対応した冷却水用及び製紙用スライムコントロール剤が安全性の面で認められ、全製紙メーカーのスラコン剤市場のシェア40%を占めるまでになりました。

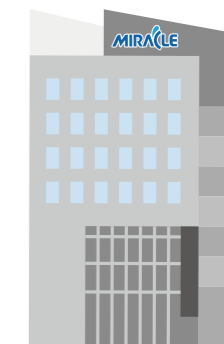
塩素素材に替わる唯一の海水冷却水系付着生物防止剤「シェルノン」、続いて排水中の懸濁物質や有害物質除去剤の「フロクラン」が商品化。本社工場が新たに建設され、生産設備も動力による生産スタイルへと変化。業績アップの2つの柱は、製紙用スライムコントロール剤と「シェルノン」でした。

公害問題の深刻化に呼応して、アメリカへの海外視察団に参加。行政面では環境庁の発足で法的規制が強化拡充されました。環境計量士、環境計量証明事業の登録制度が発足。当社社員も資格を取得し、現在の大阪と鹿嶋に分析センターとして業務活動を始めました。

創業以来、時代と共に変化する様々なニーズに応え、
社会に貢献することを目指し歩んできました。

これからも環境と産業の調和する

新しい価値の創造に挑戦し続けます。



本社新社屋(1981年5月)



三国工場(1986年10月)



第二研究所
(1989年6月)



本社新社屋(2005年10月)

■発展期 1974(昭和49年)～1984(昭和59年)

“安全と信頼”を獲得した特許商品開発期

昭和49年、戦後初のGNPマイナス成長の中、次の柱となる工業用防腐防カビ剤「モルノン」と、公害対策対応製品に改良した工業用水処理剤が売上を伸ばしました。昭和50年、業界に先駆けて非クロム化を達成したこと、高炉炉底の化学洗浄によってその業績を表彰されたという大きな出来事がありました。

昭和51年、特許専門部署を設置。以後特許の出願件数・取得件数が増加し、品質をより高めていきました。昭和53年、製紙・パルプ関連製品の営業技術部門として特品課を発足。「ミラクルピチコン」などの開発を進めつつ、販路を世界へと広げていきます。

昭和56年、世論の要請に応え、リン酸成分を含有せず、脱酸素処理装置も必要としない画期的なボイラ水処理剤「ミラクルシャン」を開発。非公害型からさらに人体に対してより安全性の高い製品開発に着手しました。

■躍動期 1985(昭和60年)～1995(平成7年)

新時代へ向けての革新への挑戦

円高時代に突入した昭和60年。「シェルノンV-10」の無公害性に着目した全漁連より製品開発の依頼を受け、後に業界に新風を巻き起こした「マリンサワー」へ発展するきっかけに。平成2年、水処理の監視・管理システム「NOMO」シリーズの開発に着手。海洋関係の動物用医薬品「マリンサワーSP」商品化。

平成3年、バブル崩壊。当社では「ミラクルシャン」国際会議発表、「マリンサワー」、木材保存剤「ミラクルローレル」の相次ぐ受賞、新製品の販売、平成4年、シンガポールにナツスチールカタヤマケミカルズ社設立など明るいニュースが続きました。

■変革期 1996(平成8年)～2005(平成17年)

グローバル時代を生き抜く21世紀型企業への変革

企業の合併や再編など経済情勢が激動する中、次世代を先導する企業を目指し、変革を遂行していきました。平成8年秋、綾部工場竣工。平成10年、全社的に品質管理システムを構築し、ISO9001を認証取得。平成12年には“水の化学から環境の科学へ”をコンセプトに新しい価値創造に邁進することを決意。その具現化として平成14年、綾部工場がISO14001を認証取得しました。

平成16年6月、米国ナルコ社のグローバルな水処理技術と融合し、合併販社片山ナルコ(株)を設立。平成17年には新社屋が完成しました。

■創造期 2006(平成18年)～2015(平成27年)

価値を見直し、価値を創造する時代へ

いざなぎ景気、リーマンショックと、目まぐるしく変化し続ける社会情勢において、企業の役割・責任はますます高まり、新しい価値を創造する段階へ入りました。片山ナルコと共同開発した無機系スライムコントロール剤「デポサイド」、バラスト水管理システム「SKY-SYSTEM」など技術を拡大。平成21年には、白浜海洋試験室を開設。環境分析事業が主力事業に成長し、平成24年に和歌山分析センター、平成25年に鹿嶋分析センターを新築・増設しました。

■革新期 2016(平成28年)～

変化する時代に新しい環境テーマに取り組み進化し続ける

マーケティング、セールスも強化し、硫化水素発生抑制剤「サルミノン」や消臭剤「ミラクルオーデル」を発売。平成28年には設立60周年を迎え、お客様の様々な環境課題をテーマに、新しい世代に新しいValueを創造し続けます。